

ニューズレター

第5回アジア太平洋管理会計 フォーラム記

アジア太平洋管理会計学会

第5回アジア太平洋管理会計フォーラムは、10月31日から11月2日まで別府大学国際経営学部で開催された。9カ国から50名以上が参加し、「世界的な金融危機における経営と会計の諸問題」（メインテーマ）について議論した。特別講演では日本の自動車産業の現状と問題点、更には今後の方向について報告を受け、討議を行った。ダイハツ九州株式会社東迫会長の講演を受け、工場見学を行うことができたことは参加者にとって非常に有意義なものであった。また、二日目の特別講演では、「管理会計の現状と今後の課題」について報告が行われ、全体として非常に密度の高い国際会議となった。

このフォーラムに関連して、マレーシア・マラ工科大学のウー准教授とスウェーデン・ベクショー大学、ヤン・アルペンベルク教授が大会記を寄せているので紹介しておきたい。

（別府大学国際経営学部教授 西村 明記・訳）

第5回アジア太平洋管理会計学 会フォーラム：別府での経験

ウー・スウ・ファイ

日本と言えば、すぐさま能率というイメージが想起され、管理会計の教員としてジャスト・イン・タイム、カンバン、カイゼンやその他の日本の管理会計技法がおのずから私の心を横切るのである。2009年10月31日から11月2日まで九州の別府大学で第5回アジア太平洋管理会計学会フォーラムが開催されるのであるが、そのフォーラムに私は何を期待するのであろうか。今回、私の日本への訪問は初めてのものである。

日本語が堪能でないで、私は日本語辞典と旅行案内書を、それらが私を目的地に連れて行ってくれるであろうと期待して、スーツケースに詰め込んだ。“有難う”は亡父が私の記憶にしっかりと刻み込んだただ一つの言葉である。父は、現在のマレーシアであるが、日本のマラヤ

における占領期に習った幾つかの日本語を私たちに教えてくれた。

私はこの唯一の言葉を携えて、福岡国際空港に到着後目的地の別府大学に無事着くであろうか。アジア太平洋管理会計学会会長西村明教授は福岡国際空港から高速バスに乗ること、そしてその旅程が約2時間かかることを教えてくれた。バスを待っている時に停留所の職員はバスが予定より6分遅れて発車することを乗客に告げた。発車の定刻よりも6分遅れが乗客に引き続き知らされた。私は6分以上待つことにはこれまで慣れていない。マレーシアでは、ある時には飛行機が7時間近くも遅れ、飛行機が離陸する時まで暗闇のなかに閉じ込められていた。

ジャスト・イン・タイムはまさに管理会計の重要な一部であるように、日本人のライフサイクルであり、文化でもあることに気づいた。フォーラムでも個々のセッションにおいて、日本の司会者は、ベルでもって‘あと5分です’と報告者と参加者に告げている。これは新たな経験である！時間が重きを成しているし、1秒さえも価値を持っている。公共輸送の主要業績評価指標（KPI）は適時性によって測定されている。フォーラムにおいてすべてのセッションは時間通りに進行している。私は、私に割り当てられた時間よりもかなり前に報告を終えた時、「さてどうしましょうか」というように、司会者を当惑させた。私は、「質問と回答のセッション」と返答した。さて、私の主要業績評価指標を私は達成したのであろうか。イエスカノーカ。私は、新しいシステム、つまり“時刻前に”（Ahead to Time）を生み出したことを知った。

第5回アジア太平洋管理会計学会フォーラムは誠にうまく組織されていて、この学会の影響がどれほど広く行渡っているかを知り、驚かされた。参加者はスウェーデン、デンマーク、カナダ、ニュージーランド、アメリカ、台湾、中国、もちろんマレーシアからはるばるやって来たのである。フォーラムの中での観察そして参加者との相互接触を通して、日本の学術界ではよき弟子への指導が熱く実践されていることに